

もっと現場を知る！職員短期派遣研修報告書

所属名	松江清心養護学校	氏名	三島 秀子
派遣先 団体名	NPO法人あしぶえ		
<p>①研修の日時・内容</p> <p>7月19日(土) 18:00~22:00</p> <p>しいの実シアター演劇公演「二十二夜待ち」表方体験・観劇</p> <p>表方(総勢17名)の一人としてカフェコーナーを担当。観劇のために来場されたお客様にコーヒーやジュースを提供した。開演直前に場内に入り観劇。</p> <p>※表方とは？</p> <p>公演の際に来場されたお客様をお迎えするため、駐車場整理、受付、場内整理、ショップ、カフェなど劇場の「表」で観客に接する仕事。</p> <p>7月30日(木) 19:00~22:00</p> <p>第5回八雲国際演劇祭「本格スタートの会」参加</p> <p>ボランティアスタッフ、ホストファミリー、八雲町内各団体の長などが参加する会に運営本部スタッフとして参加。第5回演劇祭の特長説明や各委員会の紹介の後、演劇祭交流委員会が準備をされた交流会があり所属される委員会の活動内容紹介や準備状況などの情報交換を行った。</p> <p>9月 2日(火) 8:45~12:15</p> <p>八雲小学校表現ワークショップ体験</p> <p>約10年前から八雲小学校の3年生対象に行われている表現授業に参加した。</p> <p>「1. 集中しよう 2. 心をひとつに 3. 失敗はたからもの」という約束のもと、ストレッチやコミュニケーションゲーム、体をつかった形づくりなど、一緒に活動をした。</p> <p>2学期最初の授業で、見慣れない大人が3人も参加して子どもたちの反応はどうかとも思ったが、授業後に児童が書いているふりかえり(反省)によると、「新しい先生が3人もきて楽しかった」とたくさん子どもたちが喜んでくれたとのことなので安心した。</p> <p>なお、今回から松江市のNPO研修生も一緒に活動を始めた。</p> <p>9月 4日(木) 19:00~21:00</p> <p>八雲国際演劇祭第3回運営委員会参加</p>			

期間中ボランティアスタッフが所持するポケットガイド（案）により運営本部及び各委員会リーダーから説明があった。

私たちNPO研修生は期間中運営本部のインフォメーションを担当することとなっているので、説明後の各委員会内打ち合わせ及び他委員会との連携の時間を利用して今後のスケジュール等を確認した。

10月30日（木）8：30～17：30

八雲国際演劇祭

演劇祭期間中の臨時運営本部が置かれている平原会館において、本部事務補助作業を行った。演劇祭開催期間中のインフォメーションのスムーズな運営のため、本部との最終確認を行った。

10月31日（金）8：00～21：00

八雲国際演劇祭

- ・松江清心養護学校大道芸公演運営補助（午前）

演劇祭参加劇団である「チキキ*パークウ」のメンバーである「WITTY・LOOK」による大道芸「プティ・プティーズ」の学校公演があり、道具運搬、会場準備、公演後の片付けを行った。

児童、生徒、保護者及び教職員で観劇をし、大変好評であった。移動手段の都合で全員で学外へ観劇には行けないため生のステージにみんな喜んだ。

- ・運営本部（午後）

演劇祭開会式準備、受付、場内整理等。

開会式後はあしびえによる「二十二夜待ち」上演、さらに会場を熊野館に移して参加劇団員やボランティアスタッフなどが参加してのウェルカムパーティーもあり、多くの来場者で賑わった。

11月 1日（土）～3日（月・祝）

八雲国際演劇祭

- ・運営本部前に設置のインフォメーションテントにて来場者の対応を行った。今回「海と山のマルシェ」を同時開催し、そちらを目的にしての来場者がかなりおられたため、「演劇祭」の説明、チケットセンターへの案内、観光案内ガイド配布なども行った。

- ・3日間、残念ながら雨が降ることも多く、インフォメーションテントを急遽バス待ちのお客様テントにしたり、バス待ちやレストランのお客が多いときには椅子を用意したりと、仕事がない時間帯はほとんどないほどだった。

- ・最終日の夕方からは演劇祭レストランでさよならガラパーティーがあり、参加劇団員、ホストファミリー、ボランティアスタッフが参加して公演の感想を話したり、再会を誓ったりと交流の花が咲いた。また、ボランティアスタッフ有志によるダンスも披露され、参加劇団員も一緒になって何度も踊る様子が見られた。

12月8日（月）

研修ふりかえり

あしびえの園山理事長、有田事務局長、田中さん、松江市と島根県から派遣されていた職員の6名で、短期派遣研修のふりかえりと意見交換を行った。

②研修の感想

NPO法人あしびえは①演劇公演の制作と上演②表現コミュニケーション能力育成③しいの実シアターの管理・運営④八雲国際演劇祭の運営⑤法人全体の運営の5本の柱を掲げて活動をしている。今年度は3年に1度の八雲国際演劇祭の開催年という事もあり、演劇祭を中心に研修をさせていただいた。

<ボランティアスタッフへの高い評価>

演劇祭は確たる「開催目的」と、それを円滑に達成するための「活動の指針」をもとに、運営本部やボランティアスタッフが共通意識を育みながら活動をしている。そして、大切にしているのが『振り返り』である。演劇祭終了後に各委員会毎に運営本部と一緒に振り返りの時間を持っているが、開催期間中も気付いたことはどんどん「改善」をしていく。例えば、バスの行先表示や次の公演の案内を広報スタッフにわかりやすいものを作ってもらい、チケットの残数をインフォメーションにも掲示する、など。運営本部では演劇祭が始まると次回を見据え、改善案が次々と出てくる。そして、次の演劇祭がさらに素晴らしいものになっていくのである。

このことは、運営本部がまとめておられる「数字で見る八雲国際演劇祭」からも読み取ることが出来る。上演作品に対する感想は大満足が74.7%、満足が22.7%、合わせて97.4%を記録した。また、継続して参加しているボランティアスタッフの確かな経験に基づいたホスピタリティにより、演劇祭全体に対する感想は、大満足56.9%、満足31.1%、合わせて88%の数値を得た。

この「振り返り」と「改善」は私たちが普段仕事を進める上でも参考にすべきところが大きいと思う。つい前例のとおりにはやっつけてしまいがちで、見直しをしないことが多いのではないだろうか。常に「これがベストのやり方か？」という意識を持って臨むことが大切だと感じた。

<外部有識者から見た八雲国際演劇祭>

政策研究大学院大学教授・垣内恵美子氏によれば、「この演劇祭はクオリティが高く、敷居が低く、万人が楽しめるもので新しい地平線を切り拓いている。つまり、他に真似のできないものである」「地域密着型まちづくり系演劇祭」としてほぼ完成の域に達している」と評価されている。これを受け、運営面で更に効率化を図るべく、既に運営本部では改善策をまとめている。

もちろん、全て理想どおりにはいかないかもしれないが、改善策を読んでいると演劇祭スタッフならやり遂げるのではないかと感じてしまう。運営本部と多く

のボランティアスタッフにはそれだけのパワーがあると思わせる魅力がある。

<コミュニケーション能力を高める>

『参加するボランティアスタッフは考え方や仕事の進め方に違いがあります。十分な対話を重ねて最善の方法をみつけていきます』（演劇祭「活動の指針」より）。演劇祭のスタッフとして参加し、感じたことは高いコミュニケーション能力を求められていること。私はインフォメーションだったので演劇祭目当てのお客様だけでなく、同時開催の「海と山のマルシェ」に来られたお客様からの問い合わせにも答えなければならず、上演内容、シャトルバス、会場の場所、駐車場など様々な問い合わせがあり、「間違いなく」「わかりやすく」説明することのむずかしさを痛感した。

県職員も住民との直接の対応のみならず同じ職場内でもコミュニケーション能力が必要とされることがたくさんあると思うが、決して誰もが高い能力があるとは言えないのではと思うことが多い。仕事をよりスムーズに進めるためにも、また、住民の方により満足していただくためにも、コミュニケーション能力向上への取組が必要であると感じた。

あしびえでは学校だけでなく、企業や地域へコミュニケーションワークショップ講師として出かけ、年間129回のべ4168人（H25年度）の方にワークショップを提供している。しかも松江市だけでなく県内各地、さらに県外では広島でも行っている。せっかく地元の実績のある団体があるので、県全体であるいは職場単位で研修等の機会にぜひワークショップを開催されればと思う。

<人材育成>

八雲国際演劇祭のボランティアスタッフは、今回320名。通常の公演の際の表方スタッフが20～30名で固定化されている。ボランティアリーダーの本格育成を考えると、普段から関わっているコアメンバーがもう少し増えて演劇祭の中心メンバーとなればさらに満足度の高い演劇祭となっていくと思われる。県職員も研修としてでなくボランティアで継続して参加していくいろいろな体験も出来て成長していけるのではないかと思った。

<さいごに>

演劇祭の準備から振り返りまで、お忙しい中一緒に活動させてくださったNPO法人あしびえのみなさん、大変お世話になりました。ありがとうございました。

③その他特記事項

(※今後の研修実施に当たっての改善点、留意しておくべきことなどがあれば記入してください。)

演劇祭はこれまで3年に1度開催されていたが、次回2017年の開催までの今年と来年の9月、シルバーウィークにミニ演劇祭を開催される。第5回の振り返りをもとに考えられた改善策を実際にやってみて、次回へつないでいくものである。多くの研修生があしびえの活動に参加して欲しいと強く思う。



(開演を待つ来場者の行列)



(運営本部前インフォメーションテントの様子)



(シャトルバスは松江市のバスをお借りしました)



(笑顔のしいの実ハウスボランティアスタッフ)



(テントレストランでは各国料理が提供されました)



(さよならガラパーティー、盛り上がりました)